

Title	アダム・スミス生誕二百年記念會記事
Author(s)	会員
Citation	經濟論叢 (1923), 17(1): 144-152
Issue Date	1923-07-01
URL	http://dx.doi.org/10.14989/128039
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

京都市帝國大學經濟學會 經濟論叢

第七十卷 第一號

大正二十二年七月一日發行

論叢

賣上税の缺點・・・・・・・・・・法學博士 神戸 正雄
私經營統計概論・・・・・・・・・・法學博士 財部 靜治
文化的認識と歴史の認識・・・・・・・・法學士 恒藤 恭

時論

農村問題と其の救済策・・・・・・・・法學博士 河田 嗣郎

說苑

『諸國民の富』のダブリン版に就て・・法學博士 河上 肇
歴史派經濟學發達の徑路・・・・・・・・法學士 山口 正太郎
公娼の前借金に就て・・・・・・・・・・經濟學士 岡崎 文規
中世末期に於ける村落の結合を論ず・・・・牧野信之助

雜錄

米國の新關稅法に就て・・・・・・・・法學士 高橋 康順
新マルサス主義英語通俗書解題・・理學士 山本 宣治
アダム・スミス生誕二百年記念會記事・・・・委 員

アダム・スミス生誕二百年

記念會記事

近世經濟學の鼻祖として不朽の名を成したアダム・スミスの生誕二百年を記念せむがために、我が京都帝國大學經濟學會に於ては、その生誕の當日、即ち六月五日に關係圖書及び記念物の展覽會、並びに講演會を開催した。嘗て我々同人は大正五年二月にマルサスの生誕百五十年に當つて、同様の方法によつてこれを記念したことがあつた。本年のスミスの生誕二百年に當つては獨り本學會のみならず、東京に於ても帝大・商大・慶大・早大の四大學聯合の記念會があり、其他關東關西に亘つて幾多の學校若くは學會に於て、種々なる記念の催しがあつたことは、眞

に學界の盛事であると同時に、此種の記念會に先鞭を着けた本會の頗る欣幸とする所である。而して本會の今次の記念會が、マルサス百五十年記念の際に於けると同じく、頗る内容の充實せる有意義のものなりしことは勿論、深甚なる影響を我が學界に及ぼせしことも信じて疑はざる所である。

圖書記念物展覽會

圖書記念物展覽會は當日午前九時より本學構内尊攘堂に於て之を開く、陳列品は左の如き分類の下に無慮二百點に達した。

第一類 アダム・スミスの論著・書簡及び傳記

- 一、スミスの論著(原版)
- 二、スミス論著の翻刻
- 三、スミス論著の翻譯(邦譯を除く)
- 四、スミスの書簡その他
- 五、スミスの傳記(邦文のものを除く)

第二類 アダム・スミスに關係ある和書

- 一、スミス論著の邦譯
- 二、スミスの傳記
- 三、スミス學說の紹介

雜錄 アダム・スミス生誕二百周年記念會記事

イ、スミス學說の紹介を主題とするもの
ロ、明治二十年迄に公刊されし著書中、スミスの學說を紹介せるもの
ハ、明治二十年迄に公刊されし譯書中、スミスを引用せるもの

第三類 アダム・スミスに關する記念物

- 一、肖像
- 二、邸宅、墳墓、大學その他の寫眞類
- 三、スミスの藏書、スミスの筆蹟、國富論出版百年記念會記事附、スミス生誕二百周年記念論論文

當日出陳された書籍記念物の中には特に貴重なるものも少くなかつた。その二三を挙げれば先づ“*Wealth of Nations*”(國富論)の初版が八部も出陳され(本學部、大原社會問題研究所、藤本ビルナ、ローカー銀行、長崎高商武藤教授三部出陳、大平賢作氏、本學河上本庄岡教授等所藏)殊にその中には、スミスの友人ステewart (Dugald Stewart)が所藏せしものにて、其扉に彼れの自署を存せるものがあつたことは多大の注意と感興とを惹いた。國富論の原版は初版の外、再版より八版まで(本庄教授、寺尾講師、東京商科大學高垣助教授等所藏)悉く具はり、十二版

(本學部所藏) も亦出陳され、其他 Additions and Corrections to the First and Second Editions of Wealth of Nations, (London, 1784.) Theory of Moral Sentiments, London, (1790, 六版 1824, 十版) Essays on Philosophical Subjects, (London, 1795) Lectures on Justice, Police, Revenue and Arms, (Oxford, 1836) 等の論著(本學部所藏)も展觀された。

鑄刻書の中では國富論初版と同年に出版されたダンリン版國富論の初版(1776, 3 vols. 本學部所藏)並に原版の四版(London 1786)よりも、一年早く出版されたダブリン版の四版(Dublin, 1785 武蔵教授所藏)が特に人々の注意を惹いた。其他各種の鑄刻書並に抄録版も多數出品されたが、Essays on Philosophical Subjects. にも原版の外にダブリン版(Dublin, 1795, 武蔵教授所藏)が同年に出版されて居ることを特に記しておく。

次に翻譯書では、國富論の佛譯及獨譯(大原社會問題研究所、武蔵教授、本學部等所藏)の外漢譯「原富」も、嚴復譯、光緒二十八年刊(八册、本學部所藏)もあり、

道德情操論の佛譯本(大原研究所、武蔵教授等所藏)も陳列された。スミスの書簡及び傳記等についてもその重要なものは洩す所なく蒐集されたが、詳細は他日に譲る。

第二類にスミスに關係ある和書として、單に國富論の邦譯、邦文傳記のみならず、スミスの學說が我國に如何にして傳へられたかを示すために、明治前半における著書譯書中スミスの學說を引用紹介せるものを集め、且つスミスと同時代の日本の經濟學者の著書をも出陳したことは、我國に於てスミスの生誕二百年を記念するに就きて、極めて意義あることたるのみならず一般縱覽者にも多大の興味を與へたものの如くであつた。

邦譯書では石川映作・三上正毅・竹内謙二諸氏の譯書のあることはいふ迄もない所であるが石川氏がその翻譯を最初に掲載された東京經濟學講習會講義錄(明治十六年、京都府立圖書館所藏)や、自由貿易に關する部分だけを抜萃した「富國論覽要」(明治十八、九年、高垣勉教授所藏)も出陳され、

譯書はすべてで五種となつた。スミスの學說の紹介としては、福澤諭吉氏の「學問のすゝめ」「民間經濟錄」(本學所藏) 田口卯吉氏の「日本經濟論」(同上) を始めとして、其他の著書はもとより明六雜誌、東京經濟誌、國家學會雜誌(同上) 等の雜誌にも及び、すべて十六種、譯書では、神田孝平氏の西洋經濟小學(慶應四年三月、本學所藏)以下明治二十年に至るまでのもの約二十五種、出陳した。

スミスと同時代の日本の經濟學者としては、三浦梅園(復原)及び井上四明(經濟十二論)はスミスと同年の出生であるが、その前後に亘つて著名の學者としては、大石久敬(地方凡例錄) 佐藤信季(漁村維持法) 山縣昌貞(柳子新論 本居宣長(玉くし) 中井竹山(童夢危言) 等がある。而して此等の人々の著書も展觀に供したが、別に參考として舊幕時代に輸入された蘭人Rooijの著「歐洲經濟學史」の寫眞三葉(武藤教授所藏)を陳列した。これは該書にスミスの名が出て居り而も紅唐紙などが處々に貼つてあつて舊幕時代に何人か讀むだも

のに相違なく、スミスの名は既に維新以前に我國に傳はりおりしならむとの說を證據立つべき參考資料たるべきものである。

第三類の記念物中、主なるものは、タツシー作メダイヨン複製石膏像(一七八七年、スミス六十四歳の時の作)を始めとし(高垣助教授所藏) タツシーのメダイヨンに基き Bell, Horsburgh, Hall 等が彫製した胸像版畫、及び其他の胸像、半身像、全身像等の版畫、スミスの母マーガレットの寫眞、カーコウデイー、牛津、グラスゴウ、エデンバラ等に於ける關係ある學校、その他の建物、邸宅墳墓等の寫眞、スミス両親の結婚記念の椅子の寫眞、スミスの藏書、筆蹟、國富論出版百年記念記事、等に至るまで多く蒐集され、且分類されて出陳せられた。又今回の生誕二百年を記念せる諸論文も、新聞及び雜誌上にあらはれしもの、中、主なるものを出陳してスミスを偲ぶの料とした。

當日、主要出陳品目錄を印刷し來觀者に配布したが、豫め印刷せし一千枚の目錄も須臾にし

て盡き、更に五百枚を増刷せしも、これまた暫時にして盡きむとするの盛況に會せしを以て、特に翌六日も午前九時より午後五時まで一般の縦覽を許すことゝなつた。

講演會

午後一時より本學部新大講堂に於て小川博士司會の下に講演會を開く、正面の壁、高き所に恰も經濟學界に於ける不滅の巨星の如くに、花環にて飾られたスミスの大肖像版畫が、掲げられた。定刻前に早くも千餘名の聴衆がさしもの廣い大會場に充滿するといふ盛況であつたが、豫定通り午後の正一時に、財部教授の開會の辭を以て始められ、順次次の如き講演があつた。

第一席 スミスの生涯 本庄教授

スミスは二百年前の一七二三年の六月五日に英國スコットランドの一邑カーク・デールに生れた。日本ではこの年に三浦梅園や井上四明が生れて居る。スミスが何時カーク・デールの小學校に入學したかは從來明かでないとして居たが、現に舊校舎の建物に貼つてある門標には一七二九年から一七三七年までスミスが在學した旨記されて居るから、若しこれが正しいものとすれば、スミスは滿六歳から十四歳まで此處に學んだ、ことと

第十七卷 (第一號 一四八) 一四八

なる。カーク・デールの町には二三の製鉛所もあり、バルツツク海への貿易も行はれた。これ等の事實も多少彼の國富論に影響を與へたに相違ない。彼は一七三七年にグラスゴウ大學に入りてハッチェンソン教授の強き感化を受け、一七四〇年に牛津大學のベリーオール・カレッジに進んだが、牛津の七年間は彼れにとつては決して愉快なる生活ではなかつた。一七四八年にエジンバラ大學に修辭學美學を講じたのが、抑もスミスが大學の教職に就く始めてあつて、一七五〇年より五年に亘る學期に於ては經濟學に關する講義も行はれた。後、聘せられてグラスゴウ大學の教授となり道德哲學の講座を擔當し、その講義の一部に經濟學に關することも講述したが、スミスの名聲は次第に高まり俱樂部や學會での討議や話趣に上ることも屢であつたのみならず、スミス自身も實際界と接觸して、得る所が少くなかつたといふ。一七六三年より佛瑞等を旅行し六六年歸英の後、郷里に退きて専ら國富論の著述に従事し、一七七六年之を倫敦で公にした。同書には理論の間を縫うて多くの興味ある事實が説かれて居るが、日本に關する記事も三四ヶ所に見えて居ることは我々日本人にとつて少からざる興味を覺える。其後スコットランド税關委員となり、グラスゴウ大學總長にも選ばれ、一七九〇年七月十七日遂にこの世を去つた。享年六十七。即ち國富論出でて十五年の後であるが、その時には國富論は既に第五版を出し、歐羅巴の主なる國語にも翻譯され、その影響は學界に於ても實際界に於ても實に偉大なるものがあつた。十九世紀に於ける經濟上の自由運動の如きその一例である。眞に彼は當該

時代を説伏したのみならず次代をも支配したものであつて、經濟學史上千古不動の地位を占め、不朽の名を成せるものなることは言ふ迄もない所である。

第二席 スミスの著作 河上教授

スミスが生前に公にして著作は僅か二部である。其一は「The Theory of Moral Sentiments」であつて、これは彼がグラスゴー大學に於ける講義 Moral Philosophy の一部に手を入れて出版したものである。其初版は一七五九年に出版され彼の生存中に第六版まで重ねられた。

グラスゴー大學に於ける前途の講義は(一)自然神學(二)嚴密な意味における倫理學(三)法律及び政治の一般原理のうち正義に關する部分(四)同じく法律及び政治の一般原理のうち、行政・蔵入及び軍備に關する部分の四部門に分れてゐて、この中の(二)の部門に手を入れて出版したものが、彼の The Theory of Moral Sentiments である。なほ此の書に記載してある著者の豫告を見るに、彼は Moral Philosophy の講義のうち、前に述べた(三)及び(四)の部門に相當する部分も追て之を公にする積りであつたことが分かるのだが、その豫告の一部分はそれより約十七年を経て實現された。即ち有名な An Inquiry into the Nature and Causes of the Wealth of Nations がそれであつて、之は前に述べた法律及び政治の一般原理のうち「行政、蔵入及び軍備」に關する部分に相當するものである。この Wealth of Nations が彼れをして今日の如く記念せらる

ゝに至らしめた彼の主要著作であることは、論を俟たぬ。

スミスの歿後公にされた著作は二つある。其一は死後五年目に出た Essays on Philosophical Subjects や、其二は死後六年目に出た Lectures on Justice, Police, Revenue and Arms である。前者はスミスが臨終に斷行した未定稿の燒却を免れたもので、死に際し之を友人に託して適當の處置を爲さん事を乞ふたものである。後者はスミスが往年グラスゴー大學で試みた講義を一學生が筆記せしものを、一八九六年にキアン教授が校閲して出版したものに外ならぬ。これは Moral Philosophy 中の(三)及び(四)の部門に相當するものである。

第三席 スミスの學說の根柢としての

價值思想 恒藤助教

アダム・スミスの學問的思想の主要なる部分は、『道德哲學』の統一的體系を構成するのであるが、彼の價值思想は、道德哲學の全學說の基礎的思想の一部分を成すものとして、之を考察することが出来る。彼の見解によれば、神が世界を創造した目的は、人間をして生成し發展して幸福なる境涯に到達せしめむがためである。斯かる究極目的こそは、一切の價値の安富性の根源であるが、個々の價値は、直接には斯かる究極的標準によつて測定されるのではなく、若干の價値樣式に従つて規定されるのである。そしてスミスは、それらの價値樣式を個人の心理的性情から統一的に導き出さうとするものであり、善の價値、正義の價値、富の價値などについて、各自特有な仕方によ

いてではあるが、斯かる見地から、その成立の條件を考へてある。道德的生活の意義は、第一には、個人が他人の自由を侵害しないことであり、正義の價值は、斯かる方向から、個人の行為の意義を表明する。第二には、他人の利益を顧慮して、他人の感情に積極的に満足にあたへる行為をなすことに存し、善の價值は、斯かる行動の意義を顯彰するものである。そして個人が、生活の維持發展の手段たる富の生産及び蓄積のために心を勞し努力することは、正義に反せざる限りは、道德的に是認される所である。善、正義、富の三種の價值は、個人の生活を中心として觀るときは、相互にかやうな關係の中に立つものであるがこれらの價值は、必然に社會關係を地盤として成立し、實現されるものである點について、スミスは深き理會を示してゐる。スミスが經驗科學として、文化科學として、社會科學としての經濟學を建設し得たのも、根本に於いて、斯かる事情に基く所が大きいのである。

第四席 スミスとコンヂアツクとの

價值論 田島教授

コンヂアツクは經濟學者といふよりは寧ろ感覺論的哲學者である。スミスが學界の幸運兒なりしに反し、彼は不幸にして世に知られざりしと雖、其著「商業と政府との關係」は能く彼の思想を示して居る。若しスミスにして佛國旅行中彼れと交游する處ありしならむには、恐らくスミスの思想の上に大なる影響を及ぼせしことであらう。

コンヂアツクの長所は、其説く所、平易にして奇を衒はざる點に在る。而してコンヂアツクの説もスミスの説も共にマーカンナリズムの反動として起り、自然法則學派に反對し、國內商業、國際貿易に自由説を主張し、商工業も農業も共に生産的なりとせる點に於ては、両者は共通である。次にスミスの短所に就て述べんに、凡そ價值論には二大潮流がある。主觀的價值説と客觀的價值説とが是れである。前者にはマクネス、ダキノ、スミス之に屬し、後世の限界效用説は此説より出づ。後者にはコハネス、ベテト、コンヂアツク之に屬す。今、スミスの説く所を見るに彼は價值を使用、交換の二者に分つも後者のみを説いて前者に及ばず、又一面には價值の根源及び尺度は勞働に在りと云ひ、他面には土地資本も亦價值の要素をなすものであると述べて居る。なほ價格を論ずるに當つても不明瞭なる點あるを免れない。故にスミスの説は、見方に依つては或は社會主義の如き、或は資本主義、個人主義、國家主義の如き觀がある。然るにコンヂアツクに至りては價值を説くに缺乏と充分と過剰との三方面より觀察し、凡そ價值は人間の概算及び經驗より來る判斷によつて定まることなし、欲望を分ちて自然的及び人為的欲望、並に、隔りたる欲望及び現在欲望となし、更に價值の大小は物が欲望を充足する程度に依つて定まると説いて居る。要するに價值は效用より論ずべくして勞費より説くべきではない。此點に於てコンヂアツクの物の價值は效用に基くとする説は、スミスの勞働に基くとなす説よりも正鵠を得たるものとせざるを得ない。

第五席 スミスの自由政策の見地と

自然主義觀 河田教授

スミスの自然主義觀は、第十八世紀の歐洲に於ける啓蒙主義の思想に據て立つものである。此思想は次の諸點に於て、文藝復興の思想と共通である。即ち、人生に對する喜悅、二、活動創造に對する大なる希求、三、人間が事物を支配せむとして理智に對する倚賴、四、科學的研究の發達、五、凡て自然的なるものは善なりとする思想等がこれであつて、スミスは實に如上の思想を享けて之を經濟學上に應用したものである。哲學者オイケンハスミスの業績を批評して是れ當時の思想を經濟なる特殊方面に表現したものであると説いて居る。

スミスの自然主義的思想は、本來フイジオクラートの思想を繼げるものであるが、猶多少の相違がある。前者の自然主義觀は現實的のものであるに反して、後者のそれは理想的のものである。尙ほ彼は個人の利害衝突は、自由に放任する事により其弊害は自ら矯めらるゝものなりと力説して居る。スミスと同じく自然主義觀を懷く者にルソーがある。兩者は共に樂觀論者ではあるが、前者が現狀を肯定する樂觀的樂觀論者たるに反し、後者は現狀を否定する悲觀的樂觀論者なるの相違がある。前者の思想的後繼者は即ち實本主義經濟學者であつて、後者のそれは即ち共產及社會主義經濟學者である。故に此等の主義は皆實に啓蒙思想に依て養はれて發展せるものなりといひ得る。

次にスミスは國家の職分は國防、司直、並に個人又は少數人

がなし能はざる施設に限るをなし、其他は各人の欲する所に委れ、國家は國內國際を間はず自由政策を採り、分業、貨幣、自由競争等凡て自然に釀成せられしものなれば、經濟上のことは個人の自然的な自由行動に放任すべしとし、斯くする事に於て和合と友誼とは生じ來るものであると論じて居る。

要するにスミスは啓蒙思想を受け、分解と綜合との力を以て人生の一方面たる經濟に關して一科學を建立せるものであつて、吾人は今日彼に對して深く感謝の意を表するものである。

第六席 スミスの租税原則 神戸教授

アダムスミスの租税原則といふのは平等、確實、便宜、最小費の原則だが、此は、獨逸學者例之、ワグナーの其と比較すると財政々策の原則、國民經濟的原則、公正原則中の一般原則を缺く。彼は此原則をザインとして扱つて居るが、其實は彼の理想から出たものである。彼の原則は箇人主義及自由主義から出て居る。獨逸學者の國家主義保護主義より出づると異なる。彼の原則の二々が夫の根本觀から説明し得るのみならず、彼が財政々策原則や國民經濟的原則を採らなかつたことも彼の根本觀から説明し得る。特に其の財政々策の原則を採らなかつたのは、彼の箇人主義自由主義より出た國務隨て國費の小なること、歳入に於ける國有財産國營業收入の排除、隨て生ずる民業の増加、隨て又税源の豊富なることに依つて、其必要を見なかつた爲めである。彼の原則の説明に於ては到る處、納稅者の利益を計り彼等に都合の良いことを説いて居る。隨つて其れだけにては彼

は我國の實業家等の辯護者のやうであるが、併し他方に自由主義非保護主義を懐くものであるから、我國實業家の如く動もすれば國家の保護を要求することの多き人々の眞の辯護者ではない。

以上の講演が終つて後、小川教授の閉會の辭を以つて講演會を閉づ。時に午後六時。更に關係者の記念撮影と晚餐會とがあり一夕の歡を盡して散會したのは九時であつた。猶當日スミスの肖像、筆蹟 *Wealth of Nations* 初版上巻扉、及びスミスの學びし *Kirkcaldy の Burgh School* の四枚を一組とせる記念繪葉書を發行して、關係者及び學内に配布した。

今回の記念會について長崎高等商業學校教授武藤長藏氏、東京商科大學助教授高垣寅次郎氏、大平賢作氏、御木本隆三氏、大原社會問題研究所、藤本ビルブローカー銀行調査部、同志社圖書館、京都府立圖書館等がその珍藏せらるゝ幾多の貴重なる圖書記念物を出陳され、以て展覽會に一段の光彩を添うることを得たるは、本會の深く感謝する所である。猶當日武藤教授其他

より祝電を寄せられ、殊に態々東北大學より參會された方もあり、和歌山高等商業からは殆んど全校の學生を擧げて來會せられ、其他大阪彦根各地から來會された方も尠くなかつた。かくの如く今回の擧が多大の成功を告げ有意義なるものなりしことは、全く學内學外各方面よりの同情の厚かりし爲であつて、本會の深く感謝しつゝある所である。尙數ヶ月の後を期して本誌特別號としてスミス記念號を公刊する豫定であることを一言附け加へて置く。(委員)